

— 大妻 コタカ 先生の言葉から — 「隣を愛する」 昭和10年5月「ふるさと」からの抜粋

一家のうちでも、クラスの中でも、またお勤めの場所においても、周囲の人々から慕われ、なつかしまれるものは、知識でもなく、地位でもなく、勿論、財産でもありません。ただ、愛の力のみでございます。

From the Principal - 隣を愛する/Think positive! - 校長 野崎 裕二



『自らを過信するときに、人間はとかく謙譲の美德を失い、従順さを忘れるものです。人の生活には必ず隣があります。私どもを幸福にするときにも、不幸に陥れるときにも、隣の力がつねに大きく働くのでございます。皆様が社会においてよく融合しうよう、そして隣を愛し、隣を益し、隣とともに栄えるように努められるよう念じております。』(大妻コタカ)

5月に入ってすぐ、外出自粛のさなかではありましたが、どうしても外せない出張があり、東京駅に行ってきました。想像はしていましたが、東京駅構内も、外も、あまりにも閑散としていました。何か違う世界に来たよう

な、新型コロナウイルスがこの世界を変えてしまったような錯覚に陥りました。

政府の専門家会議が、当初、感染拡大防止には人々の行動の変容が必要であるとしていましたが、まさにそういった状況にあるのだと思います。

本校は、先日お知らせしたとおり、臨時休校期間を5月31日(日)までと延長いたしました。非常に残念な思いではありますが、「生徒の安全」を最優先とした対応であり、この期間におきましても誠心誠意より良い教育活動を実現するために努力してまいりますのでご理解いただきたいと思います。

専門家会議は5月1日の提言では、『徹底した行動変容の要請を緩和するに当たっては、再流行への対応体制を整えた上で、感染拡大を予防する新しい生活様式により暮らしていくことが求められる。』としています。

また、先日テレビで、フランスの経済学者・思想家であるジャック・アタリ氏の言葉が、冒頭のコタカの言葉と重なって非常に印象に残っています。2017年の著書「未来予測」の中で彼は、人類の危機を回避するために『自分の幸福は、他者の幸福に依存していることを自覚せよ。』と述べています。彼はテレビのインタビューに答えて、「利他主義」について語っていました。

「利他主義は最善の合理的利己主義に他ならない。自らが感染の脅威にさらされないためには、他人の感染を確実に防ぐ必要がある。他国が感染していないことも、自国の利益になる。長期的に見れば、海外市場の繁栄は国益につながる。利他的であることは、ひいては自分の利益となる。(今回の危機以降は)経済をまったく新しい方向に設定し直す必要がある。つまり利他的な経済や社会、『ポジティブな社会』『共感のサービス』に向かう方向に。そして、次の世代のために行動しよう。」

今回のコロナ危機により、求められている「行動の変容」をお互いが意識し、そして危機以降においては、再び感染の流行を防ぐための「新しい行動様式」の定着ができるよう協力しましょう。その上で、多くの人々の幸せに繋がっていくポジティブで「新たな日常」の在り方を考えていきましょう。

生徒の皆さん、現在の状況に不安も大きいと思いますが、焦らず冷静に、そして前向きに毎日の生活を送り、積極的に学習に取り組んでください。日々の、自ら進んで取り組む学習は、あなたの未来に繋がっています。

Think positive ! challenge ! construct ! create ! 教職員一同応援しています。

今回は再びコタカの言葉で締めたいと思います。

『私どもはいつも世の常道のみ歩行することを許されない場合が多いのですから、場に応じた処置を取り得る準備を常に備え、どんな事柄に突き当たっても、悠々自適に善処することのできる応用自在の力を要します。私どもの処世に必要な教養は、また社会で求められているものですので、学問に向かつては、ただ1点の高下を争う点取り虫式の勉強を排し、学校に学んだ人として人格的にもっと磨かれ、学校で学び得た知識がすべての生活に活用し得る人になっていただきたいと思います。』(真の学問)

Messages from Our Supporters from the World – 本校のサポーターの皆さんからのメッセージ

この事態の中で、本校を支援してくださっている方々から引き続き、メッセージを頂いています。ここに紹介します。

永田 真一 先生（内閣人事局 女性活躍促進・ダイバーシティ担当 参事官補佐・大東文化大学講師） から
（永田先生は、本校のSGHプログラムのサポーターとして、国の方針や施策を作る官僚として、かつ、大学で教鞭をとっていらっしゃる教育者として本校を支援してくださっています）



今、こうした時だからこそ、考えてみましょう。2つの視点を大妻中野の皆さんに提示します。
一つ目は、「正しさ」についてです。

森の木々が大きく育つために、必要な条件があるそうです。植える木と木の間に、適度な間隔をあけること。そうすれば、太陽の光、栄養を十分に吸収することができる。人間も同じなのかもしれません。時に学校のみんなどの距離はあまりに遠すぎると感じ、また時に家族との距離が近すぎて息苦しいとさえ思うことも、もしかしたらあるでしょう。そんな中で冷静で、他人の気持ちをお互いに思いやることのできる人であること。それは言葉でいうより難しいことです。

「人々は残酷だが、人は優しい」 昔、インドのタゴールという人がこう言いました。

一人ひとり親切で思いやりもあるのに、集団の中では冷静さを失い、狂気さえ起こす。まさにいま世界は、この狂気の中にあるのかもしれない。優しい人であってください。

二つ目は、「都会は自由か」についてです。

東京には、たくさんの人が学び、働き、欲しいものが何でもそろそろ。戦後たった数十年で再建した人工的なこの街は、世界有数の大都会に違いありません。「都市の空気は自由にする。」中世のドイツの都市は、自由を与える場所でした。

しかし、現代の日本はどうでしょうか。台風の日にはホームレスの人を入れない避難所。一度過ちを犯した人には二度とチャンスを与えない社会。自分と違う人間を排除することで、安心を得ている。

世界各国で、日本でも、「コロナ」と呼ばれ、いじめられた「マイノリティの人」がいることを思い出してください。いつ逆の立場になるかも、しれないのに。皆さんは、自由でしょうか。周りに自由を与える存在でしょうか。

Dr. Rhona Free, (ローナ・フリー博士、アメリカ・コネティカット_セントジョセフ大学 本校教育提携大学の学長) から
（フリー学長から4月に本校の新入生に向けてメッセージをいただき、それが、読売新聞オンラインに掲載されました。その紹介とそれに対するフリー学長と本校生徒の返信メッセージも合わせて紹介します。）

読売新聞 オンライン

教育・受験・就活

> 中学受験サポート > 会員校だより > 大妻中野中学校・高等学校

「危機乗り越えて」世界の提携校から激励メッセージ…大妻中野

2020/04/28 05:20

大妻中野中学校・高等学校（東京都中野区）は、留学先として世界8か国にネットワークを持っています。その提携校からのメッセージを、4月からホームページに掲載しています。これまで欧米や豪州などの各校が登場。米セントジョセフ大の学長=写真=からは、新型コロナウイルスの危機を乗り越え、良い年になることを願う励ましの言葉が寄せられました。詳細はこちら。（「妻中便り」一覧の「世界のパートナー校から」を参照してください）



Dear Otsuma Nakano Friends,



I am very glad to hear that our friends at Otsuma Nakano are doing well. As with your school, our campus is still closed and students are finishing up this semester in online courses. Summer courses will be online too, but we hope to be back to normal (probably a “new normal”) for the fall semester.

I am honored that you have shared my message. We feel privileged to have Otsuma Nakano as a partner and very proud to see the article in the newspaper. It translated well into English. We will post an image from this on our own social media so that current and potential USJ students know that we have a partnership with such a prestigious school in Japan.

Although it may not be for quite a few months, I look forward to our next meeting. Best wishes for continued good health.

Rhona, Free, Dr.

President of the University of Saint Joseph,

私たちの友人である大妻中野の皆さんが、健康で元気であることを伺い、ほんとうにうれしく思っています。私たちのアメリカの大学もキャンパスは閉鎖で、学生はオンライン授業で今学期を終えることとなります。夏のセミナーもオンラインになるでしょう。しかし秋学期には大学の授業も通常に戻れると信じています。（しかし、この「通常」はこれまでとは違う新しい「通常」になるでしょう。）

私のメッセージが皆さんとシェアされていることをとても誇らしく思います。本学セントジョセフ大学が大妻中野のパートナーであることをこのように日本の新聞にも取り上げられていることは、本学の名誉です。この記事を読みました。この記事はぜひ、本学でも在学生や新入生にもわかるように学内でも取り上げて、「本学は日本のこのような素晴らしい学校と提携している」ことを伝えたいと思っています。

ここしばらくはまだ難しいかも知れませんが、ぜひ次にお会いできることを楽しみにしています。皆さまの引き続きのご健康を祈念しています。

ローナ・フリー、セントジョセフ大学学長

このフリー学長のメッセージについて、本校の生徒たちが何人も返信のメッセージを書いてくれました。（メッセージを書いてくれた生徒の皆さんのものは、すでにフリー学長に送って、その返事ももらってシェアしています）そのメッセージから、1つ、高3の武田詩織さんのメッセージを代表としてここに皆さんと共有します。（日本語訳はありませんが It should be fine!!）

Dear Dr. Rhona Free, President of the University of Joseph in America

On behalf of Otsuma Nakano, we thank you for your kind message. We are thrilled to receive such a kind note from you in this challenging time.

Otsuma Nakano students have enjoyed studying with the University of Saint Joseph. The experiences encouraged the students to leave their comfort zone and pursue their dreams on a global stage. Thank you for being an inspiration to the Otsuma Nakano students.

Once the COVID-19 situation gets resolved, we look forward to visiting the University of Saint Joseph with even more motivated students.

Otsuma Nakano wishes you all well. We hope all of the University of Saint Joseph stay safe and happy until we meet again.

Once again, thank you for your message. It was great to hear from you.

Kindest Regards,

Shiori Takeda, a senior student of Otsuma Nakano High School,



Online でのさまざまな活動が始まろうとしています！ - 新しい *Beyond School* を目指して -

本校は、これまでSGH（スーパーグローバルハイスクール）のコミュニティの学校として、学校を超えて、世界中のパートナーと連携したプログラムを実施してきました。模擬国連、フロンティア・プロジェクト・チームによるさまざまな活動、服のチカラ・プロジェクト、トビタテ!留学JAPAN、SGH×WWL甲子園、All Japan High School Forum（全国高校生フォーラム）、HLABなど、たくさんのプログラムで本校の生徒が活躍してきました。

2020年度は世界中がこのような事態のために、外部と物理的につながることが出来ない状態になっています。しかし、このような事態だからこそ、新しい動きが生まれています。

例えば、模擬国連。4/26に高校生団体「もぎこみゅ」がZOOMによる模擬国連大会を実施しました。「もぎこみゅ」とは帰国生だけに限らない新しい模擬国連活動を目指す高校生の団体です。6月21日もオンラインで、模擬国連を実施することにしています。詳しくは

<http://www.mogicomm.com/36>

また、例年、本校生徒が選考に合格して参加している「HLAB」。今年のサマースクールは中止になってしまいましたが、HLAB Conversation という企画で、オンラインで海外大学・大学院に在籍している学生やその卒業生がそれぞれの進路選択について語り合うプログラムなどを実施しています。進路を考える上で、とても刺激になります。詳しくは <https://note.com/hlab/n/n0a74f6a3d098>

また、本校もメンバーである「日仏高校ネットワーク・コリブリ」。フランスの高校との交換留学を実施しています。こちらにも「フランス・コリブリ動画プロジェクト - A bientôt mes amis -」が動き出しました。本校もフランス語履修生やコリブリの生徒がこのプロジェクトに参加予定です。 <https://video.toutatice.fr/video/6276-sevigne-athle-dit-merci-aux-soignants/>

皆さん、上記アメリカ・セントジョセフ大学のフリー学長のメッセージの通り、「新しい normal」に向けてチャレンジしてみましょう。これまでの normal に縛られない世代の皆さんだからこそ、「新しい normal」をクリエイティブできるはずですよ。



Student Achievement – Congratulations! –

* 現在、休校中でクラブ活動を始め、課外活動が実施できていないため、今回は、これまで紹介できなかった2020年3月15日実施の令和元年度高等学校卒業式で、卒業生代表・大瀧菜々花さんの「旅立ちの言葉」のハイライトを皆さんと共有します。

— 旅立ちの言葉（抄） —

日差しが日々柔らかくなり、春の到来を感じる季節となりました。卒業式の中止が相次ぐ中、本日は、私達卒業生のために、このような素晴らしい卒業式を開いていただき、ありがとうございます。校長先生、先生方、そして家族にこうして卒業の日を祝福してもらえる事に、心から感謝しています。

もちろん、今までの三年間楽しいことだけではありませんでした。しかし、苦しい時、親身になって話を聞いてくれる友達がいまいました。嬉しい時、まるで自分の事のように声を上げて、喜んでくれる仲間がいまいました。そのおかげで、もがきながらも様々な壁を乗り越え、無事に今日高校生活を終えることが出来ます。そんな仲間と共に貴重な高校生活を送ることが出来て、本当に幸せです。



今日まで私達を導いてくださった全ての方々に卒業生を代表して感謝申し上げます。いつも校舎を清潔に保ってくださった用務員の方々、毎日私たちの登下校を見守って下さった警備員の方々、共に同じ時間を過ごした友人達、未熟だった私達をここまで指導して下さいました先生方、そして、特に私達のことを一番心配しながら支え続けてくれた家族には言い尽くせないほどの感謝を感じています。本当にありがとうございました。

私が大妻中野で過ごした時間を通して、心から実感できる言葉があります。

Life is ten percent what happens to you, and ninety percent how you respond to it.

これから私達はそれぞれの道を進み、答えのない問題に多くぶつかることがあると思います。しかし、それらは決して乗り越えられないものではないと信じ、一つ一つ向き合っていくことが大切だと思います。18歳の今、感じている希望や理想を忘れず、大妻中野で過ごした日々を糧に前に進んでいきたいと思っています。

今までとは少し違った卒業式になりましたが、皆様のご健勝と、母校のさらなる発展を祈念し、旅立ちの言葉とさせていただきます。

大妻中野高等学校 令和元年度 卒業生代表
大瀧 菜々花